

中齋塾 東京フォーラム
平成 25 年度 第 7 回講話

平成 25 年 7 月 13 日
於 湯島聖堂

先日、矢野弾先生の事務所にお邪魔をしました。早速失敗をしました。鼎談ということで猪瀬理事長と私でお伺いし、矢野先生と気持ち良くお話をしていたのですが、帰ってきて事務局にテープを渡したら「テープに音が入っていません」と言われました。その反省を踏まえて今日はテープを 2 本用意しました。機械音痴だと私は自覚しています。

矢野弾先生は、矢野経済研究所で日本の経済を引っ張っている方でして、その道で名を馳せております。日本の経済界、評論家として大御所です。お年は 81 歳かな。矢野さんとお話をし終わったら、矢野先生曰く「深澤さん、アクが取れましたね」と。アクが抜けたのではなく、取れましたと何度も言っておられました。「5~6 年前ぐらいからアクが取れましたよ、良い顔になりましたよ」と褒めて戴いて恐縮したのですが、その中で交わしたものを御紹介致します。

論語から現代をみる

それが今回の論語に出てきます「司馬牛 君主を問う」です。司馬牛という人は軽はずみで、お喋りです。周りを見ますと、結構そのような方はいますでしょう。おじいさんおばあさんが日向ぼっこをしながらお喋りをしているが、会話が全然かみ合っていない。だが、にこやかに和やかに進んでいる。友達同士が話していても相手が何を喋っていても相手の話を聞こうとせず、自分が話す番を待っている。相手が一息ついたら一気に喋る。それに対して答えを言うのではなくて、のっけから自分が話したいことを話す。人の言うことに耳を傾けないで、自分の喋る番を待っているという話が良くあります。これは自分で胸に手を当てて考えましょうという話です。

論語の場合は、論語の中で良い話が色々ありますから、それを現代に置きかえて、ものを考える。自分自身の身に置きかえて考えるという読み方をしましょう。周りを見渡すと司馬牛みたいな人はおられるのではないのでしょうか。物凄くお喋り、軽はずみ。あまりものを考えないで、後で反省をする。今日はあることを言わなければ良かった、また、夜寝る時に反省をする人だと思って下さい。司馬牛の場合は、反省をするかどうかまでは分かりませんが。

その司馬牛が孔子に「君子は、どういう人物をいうのでしょうか」と聞きました。孔子は「君子は憂えず、恐れずと」答えました。ここら辺は置きかえて、私が矢野弾先生とお話をしている中で、私は 28 歳で会社を起しまして、その時は資本金が 100 万円で社員は 0

人でした。10年後資本金は800万円、社員は2~300人ぐらい。58歳の頃には、資本金一億円を越しまして社員の方は2千人を越していました。そういう流れで会社を経営していましたが、その頃はアクが強かったようです。矢野弾先生曰く「貴方の表情が良くなってきたのは、60歳ぐらいです」と言われました。私は58歳の時に社長業を卒業しました。その頃は頭痛でどうにもならない状態でしたので「冷えピタ」というものを額に貼りっぱなしでした。何の根拠もなく生きていたと思っていましたが、毎日家内から「社長業を早く辞めたら如何ですか」と言われていました。自分でも、このままでは自分の身体がもたないという実感があったので、退任することにしました。そういう経緯があるものですから、その感覚で「君子は憂えず恐れず」は、この言葉通りで、君子を自分に置きかえて、憂えたり恐れたりはしないということです。孔子が答えて「うちに顧みて疾しからず」と。「お父さん一生懸命お仕事頑張って働いてポックリ逝ってね、保険金がたくさん入るから」という風に、御主人を仕事に駆り立てている奥さんもいるでしょうし、または、なるべく細く長く生かしておけば、金の卵を産む鶏のようにお給料を持ってくる。奥さんが生きてる間、細く長く毎月きちんと稼いで持ってくる亭主を選ぶか、ポックリと逝って退職金や保険金を全部自分のものにして自由に羽ばたきたいと奥さんが思うか、それによって亭主に対する接し方が変わるかもしれない。その時の判断基準です。後は、奥さんの心に疾しいものが無いので、御主人の言うことに何も目くじらを立てる必要が無い。自分の文句を堂々と言えば良い。長生きして金婚式を迎えるのは良いですね。

ちなみに、安岡正篤先生の名前を御存じの方？

—結構おられますね。ありがとうございます。

小淵さんが官房長官の時に「平成」という元号を発表しました。その平成という元号の名付け親が安岡正篤先生です。

安岡先生が亡くなられた後に、ある先生が「家内が長患いでもう長くはないのだよ。亡くなったらね、先生のように奥さんが亡くなられた後に良い人が欲しいねと思っているんだよ」と。「そうですか。先生どうぞ、どうぞ」とは言い難い話なので「はあ、そうですか」とお聞きしていました。思ってもそういう事は言っただけではいけないなと思っていましたら、御本人がポックリ亡くなられました。長患いの奥様の方がずっと後まで生きておられた。あまりそういうことを口に出して言っただけではいけないという話です。思っても言うなというのが論語の中に、別の文書であります。

紹介書籍

『奇跡を起こす 見えないものを見る力』木村秋則著 扶桑社文庫

この本を読んで良いなと思って映画を見に行きました。「奇跡のリンゴ」という映画はリ

ンゴ農家に婿入りをして、リンゴを育てるのに農薬を使うが、その農薬で奥さんの体が爛れるので、奥様を守るために無農薬でリンゴを栽培したいと思い、のめり込んで無農薬栽培を続けていたが、実が成らず行き詰まって自殺をするところまで追い込まれた。自殺をするためにロープを木に掛けて自殺をしようと思ったら、ロープが外れてしまった。仕方がないからロープが落ちた所まで行ったら、山の中に素晴らしいリンゴの木があると、死ぬ目には見えた。自分の畑は可愛がっているのにも関わらず枯れてどうにもならない。山の木は農薬も肥料もやらないのに、何故こんなに立派な木があるのかと思った。その秘密は…その本の中に書いてあります。翻ってみますと、論語の中に同じことを言っているなと感じたので御紹介致しました。

中斎塾の基本原則「足るを知る」ですが、「足るを知る」という部分で、その本の 74 ページに書いてあります。また 116 ページに、ある国の旅行者用のパンフレットの中に、「日本の国に行ったら野菜は農薬まみれだから、貴方の健康に害を及ぼすので、日本に行ったら、日本の野菜を食べないで下さい」と書いてあるというのが紹介されています。204 ページに、「大切なものは目に見えません」と良いことが書いてあります。

恒例の質問

・昨日 1 日、嘘をつかなかった方

矢野弾先生と話していましたら「嘘をつかないというのは難しい。嘘をつかないという科白は 95% の人は素直に考えるけれども、残りの 5% の人はそんなこと言ったって、こんな場合がある、あんな場合がある、色々難しいじゃないか。それに世の為、人の為に嘘をつく場合があるでしょう」と。

仮に、猛スピードの車にはねられた女性がいます。体中血だらけの所に、御主人が駆けつけてくる。御主人が「大丈夫これくらいの傷なんともない、お医者さんだって大丈夫だって言っているから大丈夫、治る」と断言して「頑張れ」と言ってくれるのと、「これは駄目だ、お医者さんも助からないと言っている、遺言でもきちんと貰って下さいとお医者さんに言われた」と、言ったらどうでしょうか。

(会員) — 「頑張れ」と言ってくれる方が良いです。

カルネアデスの舟板の変形です。嘘をつく・つかないということを含めて考えるとよいでしょう。一概に全部割り切ることは難しいです。若干、遊びが無いといけないと思います。5% ぐらいは余裕をもった方が良いでしょう。

・昨日一日良い日だったと思えた人。または昨日一日何とも困った日だなど思う人はいますか。

良い日では無かったという方でも、朝ごはんは美味しかったか、または、お昼ごはんは

美味しかったか。三食のうち、どこかで美味しいと思ったことがありましたか。

嫌なことと良いことを天秤に掛けてどちらが重いかと考えるのではなく「良かったな」ということを膨らますのです。悪いのは、掌に丸めてフッと吹き消す。丸めてフッと消すというのは、真言密教の秘法だそうです。

前に、高野山や比叡山に行ったことがありまして、高野山に行った時には作務衣を着て泊めて戴きました。その時に、出来ていないお坊さんがいました。応対して戴いたお坊さんが、一緒に行った知人に「あちらの作務衣の人は我々と御同業の人でしょうか、それともこちらの（暴力団）関係の人でしょうか」と聞いたそうです。出来ていないと言ったのはそういうことです。作務衣を着ているから、その雰囲気は御同業の人と聞くのは良いのですが、そこで止めていけば良いものを、こちらの関係と聞く。「何を不埒な」と思いました。私に直接聞かないで、側にいた知人に聞いたので更に「けしからん」と思いました。お坊さんも良い・悪い・普通というのがいます。お坊さんも凶抜けて良い人は、あまり人様に忠告しないですね。ほどほどに偉い人は、お説教をします。「お忙しい」とは心が滅ぶと書きます。裏返して言うと、講演会などで「お忙しい」という言葉を使うと、「そろそろあの世が近くなったな、あの世にいつて戴きたい。と、腹の中では何を考えているのか知れたものではないというのがありますから、貴重な時間を戴きましてとおっしゃれば良いでしょう」と。ほどほど偉いお坊さんは、お説教をします。お坊さんも上中並があります。出来る限り、上と付き合うと良いでしょう。そうすると自然とものの考え方、見方が身につきます。

良い日だったかと考えて寝る時には、嫌なもの悪いものは丸めてフッと消す。そうしますと消えます。良いものは、拡大法で良かったというのが膨らむ。天秤にかけるのではなく、良い方だけ考えていくと頭の中は良い考え方で埋まります。どうぞお試し下さい。

・昨日一日ありがとうと言ひ、言われた方

「ありがとうございます」と言うのを、自然な口癖にしていますと非常に相手も穏やかな良い顔になりますから、つつられて自分も笑顔になります。笑顔で生きていくと良いですね。

・健康法、昨日一日で何か実践された方

手を叩いたら深呼吸をして下さい。では、深呼吸をした時、最初に息を吸いますか、それとも吐きますか？

息を出すのが先、入れるのは後です。深呼吸の「呼」は息を吐くものです。

今、健康法と言いましたけれど、深呼吸をされると健康法を実践したことになります。それに、より深くイメージをすると、さらに良くなり健康法に直結します。

例えば、友人達と食事をしたとします。お金を払う段になった時に、どうしますか？割り勘としますか、自分で払いますか、それとも誰かが払うのを待っていますか。

(会員) —いえ、自分で払います。

皆さん大概優秀ですね。では、お金を誰かが払うのを待っている方っていますか。

(塾長) —ああ、いませんね。

私の友人で、食事に行くと必ず財布だけは出す人がいるのですが、中身を出さない。出そうとすると大概誰かが「今日は俺が出すよ」と言ってくれる人がいるのです。出す側の方が健康にも良いと思うのですがね。ところがね、慣れている人はポーズだけで当たり前のことと出来ていると思っているのでしょう。必ず出すのを待っている人、ポーズだけ取っている人、あれ苦しいでしょうね。

素読論語解説

今日の素読は良かったですね。よくお読みになってイメージも湧いている。ただイメージの中で一つだけ「不敏」のイントネーションを、もう一度イメージして考えてください。イントネーションが変わるとイメージが変わります。

学者は一字一句非常に気にして読まれますから、イメージが湧いてくると良いでしょう。後は、身振り手振りがついてくると良いなと思いますし、抑揚がついても良いでしょう。

登場人物の年齢を考えると大体イメージが湧きますよね。今回の編では、孔子 49 歳、仲弓は 20 歳。

論語を読む時に必要なことは、入門編は読めること。スラスラと読めたら入門編は合格です。つかえて読んでいても（振り仮名がある本で）何度か読んでいくうちにスラスラ読めるようになります。中級はスラスラ読んで、その時のイメージが湧いてくると合格です。孔子だって若い時もありましたから、孔子が何歳の時の話を想像して、登場人物が色々と動いてくるようになると良いでしょう。後は一つでも良いから、何か良い科白が見つかったら合格です。上級編は登場人物が自由自在に動いて、科白も自由自在に言う。自分がその人物になりきった感じで読めたらしめたものです。

【二】仲弓 仁を問う。子曰く、門を出でては大賓を見るが如くし、民を使うには大祭を承くるが如くし、己の欲せざる所は、人に施すこと勿かれ。邦に在りても怨無く、家に在りても怨無しと。仲弓曰く、雍 不憫なりと雖も、請う斯の語を事せんと。

仲弓は二十歳の若い人だけど、周りから徳の高い人物といわれている。その仲弓が孔子に「仁とはどのように考えれば良いのでしょうか」と聞きしました。孔子は「外出をして人に会う時には、高貴なお客様に対応するようにしなさい。国民を労働に駆り出す時には、大きな祖廟の大祭をお勤めするような気持ちで一所懸命お勤めしなさい。自分がして

欲しくない事は他人にしてはいけない。そうすれば、国や家庭においても恨みを受けることはない」ブツブツ言われるぐらいは恨みとは言いませんよね。「殺してやるぞ」というぐらいいやられることがなければ、それでよし。仲弓がそれに対して、「私は頭が悪くて鈍物なものですから先生のおっしゃったことは必ず実行したいと思います」

【三】司馬牛 仁を問う。子曰く、仁者は其の言うこと^{かた} 認^{かた}んずる、斯^これ^{これ}之^{じん}を仁と謂^いうかと。子曰く、之^しを^い為^なすこと難^{かた}し。之^しを^い言^なうこと認^{かた}んずる無^なきを得^えんやと。

司馬牛は軽はずみで、口から先に生れたような人ですから、どんどん喋ります。司馬牛にはよく考えてから喋りなさいということを教えています。

司馬牛が「仁」について質問をしました。孔子は「仁者はスラスラと言葉はすぐ出てこない」そう言いましたら「どもってアーウーと言えればみな仁者ですか」と言う。孔子は「仁を実践するのは難しいし、実行できないという事を考えれば考えるほど、軽々しく話が出るわけがない」

【四】司馬牛 君子を問う。子曰く、君子は憂^{うれ}えず懼^{おそ}れずと。曰^{いわ}く、憂^{うれ}えず懼^{おそ}れざるは、斯^これ^{これ}之^{くんし}を君子と謂^いうかと。子曰く、内^{うち}に省^{かえり}みて疾^{やま}しからず。夫^それ何^{なに}をか憂^{うれ}え何^{なに}をか懼^{おそ}れんと。

司馬牛が「君子」について聞きました。孔子が言うには「君子は、憂えたり懼れたりしない」と言いました。「憂えたり懼れたりしなければ、みな君子ですか」と言う。司馬牛については同じことの繰り返しです。

論語を勉強する上において、朱子学の入り方、陽明学の入り方、折中学の入り方と色々あります。ただ私共は陽明学から入っております。陽明学は実践・体験を重要視しております。

中斎塾の会員である竹岡さんは、三浦雄一郎さんと知り合いで、三浦雄一郎さんと一緒にエベレストに行き、三浦雄一郎さんの話をそばで聞いている。体験をするから色々分かれます。又聞きだと一つ弱くなります。何事もよらず体験、実行、その上に立って思索を深めるというのが良いと思います。

<時事評論>

ここ数年言い続けている判断基準で、数年前に民主党が政権を取っていた時には、三つ

の見方として、一番目は「テレビ等で民主党の打つ無様な手を見てください」と言い続けました。二番目は「国債の動向を見てください」日本の借金です。三番目は「自然災害を良く見てください」と、この三つが判断基準だと申しあげました。自公政権に変わってからは、自公政権の打つ手をよく注視してください。後の二、三は変わりません。この見方で新聞等をご覧戴くと、良くものが見えてきます。

アベノミクスはデフレ脱却だと言っていますが、自分自身の生活にどう直結をしているか。まず、アベノミクスが成功していると物価は上がります。2%で収まらず、どんどん上がります。水道光熱費も値上がりします。お給料が上がる人もチラホラいますが、でも今の体制では給料は上がらないが物価は上がるという状況になります。アベノミクスについては、そういう事が言えます。

景気の動向

昨日の朝日新聞で「景気が好転している」、「賃金が上がるまで時間が掛かる」というのが一面に出ています。昨日の社説で、80年前の景気対策は高橋是清蔵相が指導したとありました。アベノミクスは、これが参考になります。ただし悪政だったと書いてあります。

黒田総裁の会見で、景気判断で回復の文言を飲み込んだのは何故か。「回復」と入れたら、「回復すると錯覚する国民がいるのでは」という様なことが盛り込まれています。

今日の新聞は、大きい所での見出しで「エアコンは暑い商戦、各社増産」と出しています。後は、「ファミレスが二極化で、高い値段設定のファミレスと低い値段設定しているファミレス」「牛丼屋も200円戦争をしていたのを500円戦争に切り替える動きが出てきている」それと「自公民が転職支援に軸足を置いた」とありました。みんな面白いのです。良くなると書いてある。

今の新聞の作り方は、アベノミクス支援の方は「大きい見出し」ですが、ちょっとお考えくださいというのは「小さい見出し」です。おまけに昨日は「奥尻島復興の教訓」というものが大きく出しています。私は東日本大震災の時に、おかしいなと思って奥尻島に行きました。陽明学は必ず何かあったら出掛けて、自分の目で見て耳で聞いて身体で体験をして自分独自の判断基準で判断することが肝要です。そうすると、その頃の新聞では「奥尻島は素晴らしい。災害にあったけれども復興した」というのが新聞の論調でした。私はおかしいなと思って奥尻島に行きましたら、現在の奥尻島は閑古鳥が鳴いている。政府はドン金をつぎ込んで建物や道路は作った。その時だけ、人も入ってきて賑やかだったけれども、建物が出来たあとには人も減り、寂れてどうにもならなくなってきた。人口の流失に歯止めが掛からない。これではどうにもならないという事が現地の人の話でしたが、当時の新聞では正反対のことを伝えていました。正反対のことを伝える新聞は信用できないと思いました。新聞等の情報は半々で見れば良い。自分で変だなと思ったら出掛けるのが良いです。出かけて行って「おや？」と思うものがあります。

時事評論をする上においては、論語は役に立ちます。論語は判断基準です。論語の視点で新聞を読んでみる。現地に出掛けて見る。話を直接聞いてみる。そうすると論語から生

まれた判断基準が役に立ちます。そのように時事評論をされて自分自身の日常活動、生活行動に役立てると良いでしょう。

現代版・論語寺小屋

この間、大阪に行きました。論語寺小屋サミットという集いが開催されました。全国から論語関係の寺小屋教室の方が集まっておりました。その時は違う名称だったのですけれど、私が御挨拶をする時に「この集まりは、現代版・論語寺子屋サミットと命名されれば良いでしょう」と言いましたら、早速返事を戴いた中で「仮称・論語寺小屋サミットが開催されました」とありました。来年もやるでしょう。

論語は今、脚光を浴びつつあります。大阪に行って論語寺小屋サミットに出て、論語は日本人の背骨を作ったなと強く感じました。

判断基準は、国家などの大きなものの判断だけではなく、自分自身の御家庭の中、個人個人の判断基準として、是非活かして戴くようにお願いします。

本日は、有難うございました。